

## 成長を実感し、感謝を伝えた参観授業

校長 松井克仁

校庭の木々にも春の気配が感じられる季節となりました。早いもので、令和7年度も間もなく終わりを迎えようとしています。この一年間、子供たちは様々な行事や日々の学習を通して、大きく成長しました。できなかったことができるようになった喜び、仲間と協力することの大切さ、最後までやり抜く力、それぞれの胸の中に確かな「成長の足跡」が刻まれていることと思います。先日の授業参観では、そんな成長の一部を見ていただけたのではないかと考えています。

参観日の授業では、低学年は、各自ができるようになったことや得意なことをタブレットや黒板で視覚的に説明しました。中学年は、総合的な学習の時間に学んだこと（3年生は瑞浪市について、4年生は福祉について）をグループで役割を分担して発表しました。高学年は、自分（たち）で文章（5年生は昔話等をアレンジした物語、6年生は将来の夢や家族・仲間への感謝の気持ち等）を考えてスライドを交えて発表しました。どの学級・学年も内容が工夫しており、見ていて「なるほど」と感心する内容でした。大勢の前で発表することは、大人でも緊張するため子供たちはなおさらです。緊張のあまり、声が小さくなってしまう場面もありましたが、それも経験です。これからもいろいろな経験を通して、聞き手に「伝わる」話し方を意識してほしいと思っています。

3年生の発表を参観していた地域の方から、「子供たちが一生懸命に話していて素晴らしかったです。内容も分かりやすく見事でした。」「大勢の前で堂々と発表できてさすがでした。」「タブレットを使って上手に説明していて、昔とずいぶん変わったなと感じました。」と、子供たちの成長を褒めていただきました。

子供たちは純粋で何事にも一生懸命に取り組もうと努力します。その努力が一人一人を確かな成長へとつなげているのだと感じます。毎日接しているとその変化に気付きにくいですが、こうした機会や行事等の節目で子供たちの頑張りに接すると改めて成長を実感し、「子供ってすごいな」と感じるのです。



【↑授業参観での子供たちの活躍】

## 今年度の校舎改修が終わり、きれいになりました

5月末より行っていた北舎外壁工事が2月中旬に無事に終わり、校舎を覆っていたネットや足場などが取り除かれました。現在の校舎は昭和53年に建築され、今年で47年（およそ半世紀）が経ちます。途中、耐震化工事を含む大規模改修（平成22年～23年）が行われましたが、校舎の外壁等が浮き上がり、景観と防水機能を高めるために改修工事が行われました。来年度は6月より南舎の工事を予定しています。これからも、きれいになった校舎で子供たちが元気いっぱい過ごしてくれることを願っています。



【きれいに改修された北舎】